

素晴らしきかな日本

JH3AEF 東條純一

160mのゴールデンタイム5時前に起きだす。雪の最も深い時節の信濃路を訪ねるためだ。温泉につかって雪見酒といえは風情があって良いのだが、重いスキーをつけて雪山を走りまわるのだから情緒も風情もあろうはずがない。それでもスキー板をはじめ一切合財宅配でどうの昔に現地でお待ち、荷物だけなら往復2700円也。如何にも便利で格安に感じるのは私だけじゃあるまい。

長い板をかつぎ、大きなリュックを背負ってラッシュのターミナルを右往左往した頃を思えば長生きはするものだ。また地下鉄が早い。予定より本も早い“のぞみ”に乗れるとあって慌てなくても良いのに小走り改札をすり抜けた。寒かろうと慣れない手袋をしてきたのだが、小物の出し入れが面倒くさいことこのうえない。

“のぞみ”の座席にどっかと腰を下ろし“この調子なら名古屋の中央線乗り換えも余裕しゃくしゃく、、、”ところが発車してすぐに「米原付近の雪のため新大阪～名古屋間で徐行運転、約20分の遅れが出ています」と、ごく当たり前のようなアナウンス。

“それでも余裕余裕、名古屋での接続時間は予定どう20分チャンスと残ってるがな！！”

すっかりお馴染みになった中央線の特急ワイドビュー信濃は定刻にホームに入って来たのは良かったが、これまた「遅れている新幹線からのお客様を待つため発車が約8分遅れます」と、、

“安全運転も大事、遅れた乗客を待つてるのも大事、だけどなあチャント接続を計算して乗ってるお客はもっと大事とチャイマスカ、、、、”

“俺は松本で23分の接続で大系線に乗り継ぐんや、、これをはぶすと乗り換えに乗り換え、しかも各停でどれくらい時間がかかることになるんやー、、、、”

愛知県をようやく離れようとした多治見あたりから急にのろのろした運転になる。何でも先行の列車が雪のため具合が悪いとか。岐阜県に入り中津川では車窓は全くの銀世界に変わり、通過する駅のホームの屋根のないところでは50-60cmの雪がカステラのように積もっている。

調子の良いところでは列車はばく進し、吹き溜った新雪を巻き上げ、白い煙幕の中に居るような不思議な光景を垣間見せる。

長野県に入り左手車窓には早くも木曾谷が迫り、雪で真白になった急峻な山肌に、張り付くように幾つもの水力発電所が過ぎてゆく。そのような山肌に向けて幾条もの決して幅の広くない長いつり橋が架かっている。あの急峻な雪深い山懐にも人の営みがあることをうかがわせる。しかし、灰色に濁った冬空は御嶽山までもすっぽりと覆い隠し、木曾谷の土石流の爪あとも白い絨緞に包み込んでしまっていた。

幾度となく2分の遅れ、数分の遅れのアナウンスがあり、とうに松本での接続時間23分は使いはたしている勘定だ。

あの技術の粋を集めた新幹線が、ほんの一寸した降雪で徐行運転を強いられ、雪国を来る冬も来る冬も走り続けた中央線も、いたるところで徐行や待機を迫られる、大自然を相手に人間など何の手立ても持ち合わせない弱い存在なのだ痛感させられる。

接続時間などひとたび自然を相手にした時は、有って無いに等しい存在なのかも知れない。

松本駅に着いたのは大系線の特急が何十分も先に出てしまった後だった

怒り心頭？？？とんでもない、ここまで遅れれば何の惑いもない、途中まで行く各停の出るホームに移動するのみ！！！！

同じホームの向かい側に停車しているグリーンにエンブレム入りのカッコいい列車を横目に歩き始めた。

「、、、白馬方面、、、」駅員がハンドマイク片手にしゃべっている。

「解ってるがな、特急が行ってしもたんやろ！！！！」

「白馬方面へのお客様はこの列車にお乗りください。列車は“リゾービュー古里ラピートサービス全席座席指定”長い名前やなあ！！！！」

当たって砕ける、入り口に立つ紺色のカッコいい制服姿のお嬢さんに、「延着で前の特急に乗れませんか、これも白馬方面にいきますんか？」

「はい、参ります。まもなく発車ですのでどうぞお乗りください」

「全席指定でっしゃろ？」

「遅れた特急券をお持ちの方は座席指定料金も頂きません。空いている席にお掛けください」

「エーッッ！！」ニコニコニコッッ！！！！

これはこれは、一寸運が向いてきたがな。車内は明るいツートンカラー。最前部には展望席もあり、車窓は贅沢なワイドビュー。飲み物の自販機に清潔で広々とした化粧室も、<Fig 1>



<Fig1>

発車して間もなく女性の声でアナウンスがはじまった。

「大系線は松本と日本海側の糸魚川を結ぶ全長105.9Kmの山岳路線、難工事の末昭和32年に全線開通いたしました。信濃大町を境に南70KmをJR東海が、北側35KmはJR関西が管轄する変り種路線でございます。」だとか。

S.32とは丁度俺が山の熱病に侵され始めたあの頃だ。何となく懐かしいなーと感傷に浸っていると

間もなく穂高、穂高、この駅では穂高神社にお参りしていただけます。巫女さんが皆様を駅までお出迎えます。停車時間は20分です」びっくりした、停車時間の20分は俺にとってはもったいないように思えたが、JRの演出にすっかりのせられてしまって神社参拝に。<Fig2>

次は大町、大町。当駅は黒部立山アルペンルート of 玄関口、列車から降りて記念写真をご自由に、、、」

「この路線は北アルプスの眺望を楽しんでいただくため、アルプス側、路線の西側の電柱は全て無くしました。大町の次は白馬に停車いたします。」

「木崎湖、青木湖の眺めの良い所ではしばらく停車いたします。ドアは開きませんがごゆっくり眺望をお楽しみください。」

この車両、列車としてはでは今まで聞いたことのないハイブリッド仕様、確かに発車の寸前にブルンとディーゼルエンジンの始動する音を感じる。

何やかや、全く浦島太郎よろしく白馬駅に降り立つ。それでもしっかり特急券の払い戻しを受けて時計をみると12時半、予定の時間からの遅れの大きくないことに気を良くし、急ぎ足で細野の集落に向かう。矢張り雪国、それも最も雪の多いこの時節。指先がこごえる。



<Fig2>

手袋はと上着のポケット、ズボンのポケット、終いには背中 of ザックの中までかき回すがどうしても片方が見つからない。

何の変哲もない毛糸の手袋だが十年近くまえwifeとscotlandで手に入れた思い入れのある手袋なのだ。決して上等なものでもない。でも私にとっては何か特別な思いがあり、決して日常的には使わず、驚くほど長い時間、私の小物入

れの一角を占めてきた一品なのだ。

チクッショウ！！、新大阪駅の恐らく改札あたりでこぼれ落ちたのだろうな、、、

宿に着く。年末年始でもなく時間はゆっくり流れていた。何十年もの昔から、年末年始でもなく連休でもない最も雪の多いこの時期にこの地を訪ねるのは、私の最も贅沢な夢のひとつであった。村の鎮守の諏訪神社の鳥居は半分が雪に埋もれ、お社に上がる長い石段は雪が降り積もってまるでジャンプ台のような有様。<Fig3>

家々の屋根には分厚く雪が積み重なっている。

<Fig4>スキー場のゲレンデには新雪が降り積もりコブが出来る暇もない。

大きな大会もなく、宿も長男さんがしっかりと切り回しているようで、幼ない頃からお馴染みの宿の主、岳彦さんも宿を手伝う長女の早苗さんも、何となくのんびりとしているように見えた。と



<Fig3>

東條さん、今年は一度一緒に滑ってみまっしょ。早苗も板もって出ちゃってるから。」

「ヨッシャ」とは答えたものの、内心、今の俺の滑りを本場の御仁に見られるのはいささが気が引けるなあ。

“タケちゃんはがきの頃は結構スキー嫌いに通ってたんだがなー”

結果がどうであったかはご想像におまかせするとして、私の実感は“まあまあ滑れるがな、歳もハンディーにつければ捨てたもんじゃないデー”

純白の雪と戯れること3日、あっという間のholidayだったが宿を出る日、タケちゃんのお勧めで地の蕎麦を打つ店で昼食、再開を約し雪の細野の集落を後にした。



<Fig4>



<Fig5>

この日も中央線は車両の下で異音がしたため点検とかで延着、新大阪についたのは9時過ぎになっていた。

改札まで来たところで“ハッ”と手袋のことを思い出した。

いささが躊躇しながらもここで聞かずに後悔が残る。

改札近くに立つ一寸エライサン風の駅員に「落とし物の窓口はどこですか？」

「改札を出られてずうっと西の端、右側に相談室があります。」

「はい、有難う」

「相談室？俺の落とし物はソナイニ相談するほどの代物やオマヘンのやが？」

本当に西の端、もうそこが新御堂筋といふところまで行って表示を見つけた。

オープンのカウンターではなく扉がしっかり閉まっている。

ここまで来たためらうことはない。ノックして室内に。男性が二人。

「あの一、手袋を落としたんですけど」ナンジャ、手袋かいな、明らかに冷めたような表情で

「手袋、、、何時ですか？」何処で？」

「昨昨日、早朝、中央改札口あたりだと思んですが、、、」

「どんな？」

「毛糸でベージュ色の片方です。」ザックの中に手を入れてかき回す。

片方の駅員が隣室に消え、しばらくして手袋の片方を持って出てきて

「ベージュのはこれだけですが、、、」

「一見“それ俺のやー”と言いかけたがグッとおさえて、ザックから相方を引き出し並べておいた。<Fig5>

「中央のコンコースにあったようすわ」

「慌ててて早うに落としてたんやなー」

自動車免許証を提示し、住所氏名など記入表を書き「有難うございました」

「最敬礼」本気でそう思いました。まさか出てくるとは思いませんでした。

ということで、質素で何処にでもありそうだが私にとっては非常に大切なこの手袋、今日も私の小物入れの一角に鎮座しているのであります。

！！！素晴らしきかな日本！！！！



滑走コースから中央アルプスを望む

名残の雪をもとめて

JA3AOP/杉山 暁



2015/03/26

上左 :日没時の御嶽山 (左肩に噴煙)。 上右 :夕食の席からの日没ショー
下 :ローブウェー山上、標高2,240mには登山の人たちも、麓駅まで4kmの滑走が楽しめます。



2015/03/27



3月25日、名残の雪を求めて標高の高いスキー場へ。宿はスキー場のそば、高度1,800m、食堂の窓からは、駒ヶ岳を中心に中央アルプス、御嶽山、乗鞍連峰が大パノラマ。高い山では日没から暗闇になるまで時間がかかる。食事の初めに山に沈み始めた太陽が延々1時間の茜色のグラデーションのショーを見せてくれました。